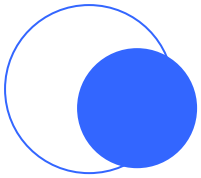


平成 28 年度事業報告



平成 28 年度事業報告

人と自然の博物館では、その活動内容をよりわかりやすくかつ明確にするために、平成 14 年度から「中期目標」と「措置」を設けています。中期目標はいわば博物館の行動の指針となる大項目であり、それぞれに達成を目指すべき目標値(指標)が設定されています。さらに中期目標各項目の下位項目として「措置」を設定し、博物館活動の活性化に資する取り組みを数値で把握するようつとめています。

- 第1期中期目標 平成 14 年度(2002 年度)～18 年度(2006 年度)
- 第2期中期目標 平成 19 年度(2007 年度)～24 年度(2012 年度)
*開館 20 周年にあたって策定した「ひととはく将来ビジョン」を反映させるため期間を 1 年延長
- 第3期中期目標 平成 25 年度(2013 年度)～29 年度(2017 年度)

1-1 研究活動

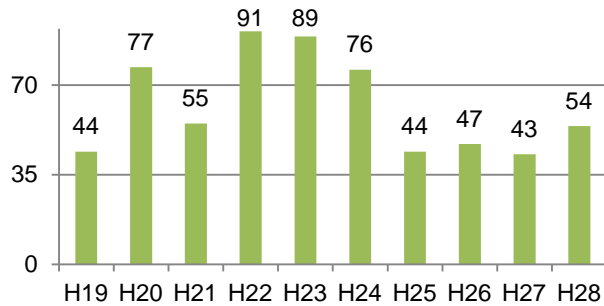


すべての活動の基礎となる研究を引き続き精力的に遂行し、成果を還元します。

1 学術論文・図書数

学会等の査読を経て掲載された学術論文と専門図書数

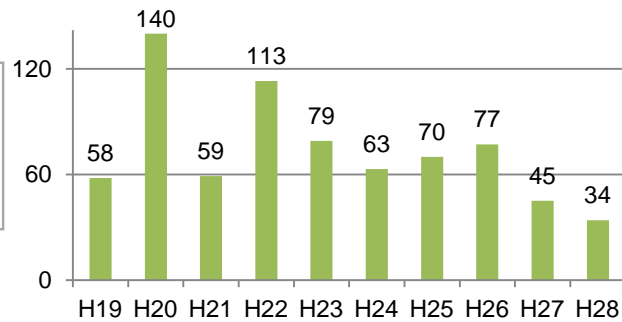
中期目標：35本/年
平成28年度：54本(154%)



2 一般向け著書・その他著作数

論文(総説・その他)、一般向け著書、雑誌・新聞等の著作数

中期目標：60本/年
平成28年度：34本(57%)



平成28年度の達成状況と自己評価

学術論文・専門図書数については、目標を大きく上回る成果が得られました。また学会発表件数や研究助成金獲得数・金額も、目標を上回っています。一方、一般向け著書等の数は、例年と比較しても低い値で推移しました。平成26年冬より研究論文を来館者にも理解しやすく優しい言葉で伝える「研究新着コーナー」を4階ひとくサロンで展開しているものの、研究成果をわかりやすい読み物として広く発信する点に課題を残しました。

平成29年度の取り組みに向けて

引き続き、最新の研究成果の発信に取り組むとともに、来館者にとってもわかりやすい言葉使いの読み物を提供できるよう、様々な媒体を活用して情報発信に努めます。

1-2 資料

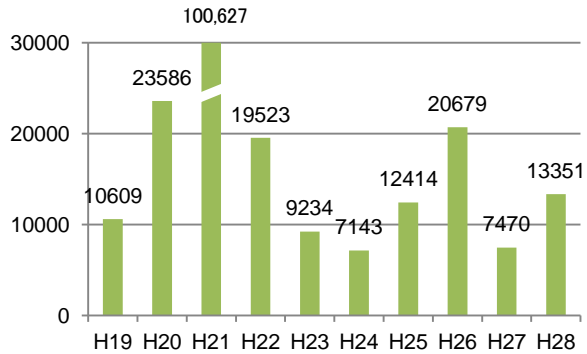


特色ある質の高い資料を収集・整理し、利活用を推進します。

1 資料の登録点数

「ひとはく資料データベース」への年間登録件数

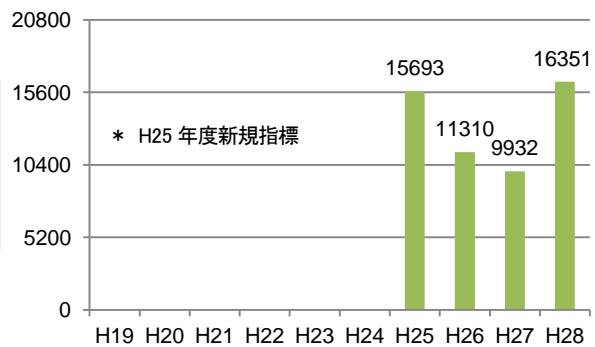
中期目標：10,000点/年
平成28年度：13,351点(134%)



2 資料の利活用点数

館内展示・館外展示・貸出点数・マルチメディア等データ提供点数の合計

中期目標：5,200点/年
平成28年度：16,351点(314%)



平成28年度の達成状況と自己評価

博物館資料DB登録件数、館外DB(GBIF)への登録ともに順調で、目標をほぼ達成することができました。

平成29年度への取組に向けて

資料標本のDB化については、省力化のため標本画像データからのラベル情報自動読み取りとDB入力プログラムの開発を進めたいと考えています。展示等への既存資料の活用は順調ですが、やや手薄になっている研究活動に生かす点について、論文の執筆・出版を中心にさらに推進します。

1-3 シンクタンク活動

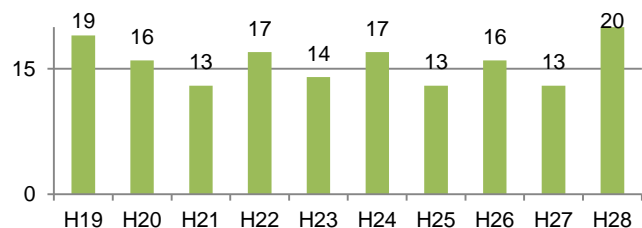
研究
シンクタンク
推進室

「地域資源の保全・利活用の最適化をはかる」ことを目的としたコミュニティシンクタンク活動を展開します。

1 受託件数

調査研究受託契約件数

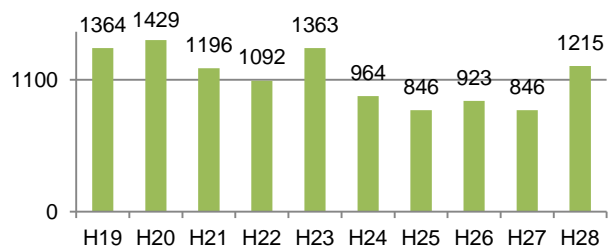
中期目標：15件/年
平成28年度：20件(133%)



2 県政・市町行政に対する貢献度

国・県・市町関連の委員会参画数および相談件数

中期目標：1,100件/年
平成28年度：1,215件(110%)



平成28年度の達成状況と自己評価

受託件数と県政・市町行政に対する貢献度のどちらにおいても、目標を達成しました。とくに県政・市町行政に対する貢献度に関しては、平成24年度以降ベテラン研究員の退職に伴い数値が低下していましたが、5年ぶりの目標達成となりました。

平成29年度の取り組みに向けて

受託件数については、継続の案件でよりよい成果を提供していくとともに、活発な研究・資料活動を背景とした当館のシンクタンク活動についてPRし、受託件数の拡大に努めます。また県政・市町行政に対する貢献度につきましても、各行政機関に対して当館研究員の専門分野や研究成果を紹介するなどして、各種委員会への参画および県職員等の相談数のさらなる拡大に努めます。

2 生涯学習支援

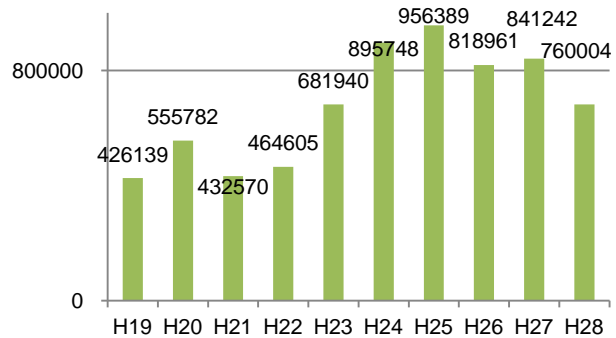
生涯学習課

好奇心を刺激する「演示」手法により、あらゆる世代に学び続ける場を提供します。

1 利用者数

総ビジター数

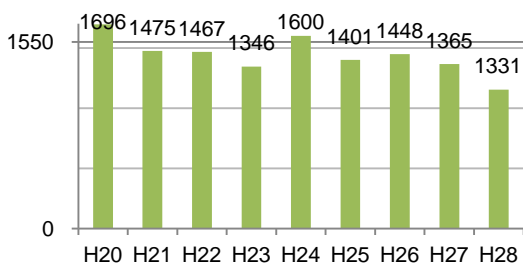
中期目標: 800 千人/年
平成 28 年度: 760 千人(95%)



2 生涯学習プログラム

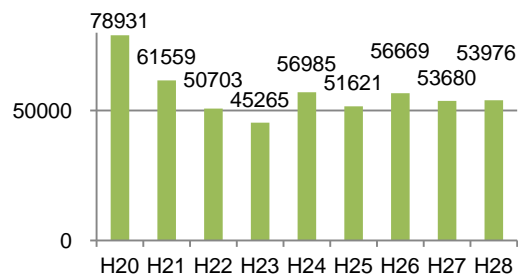
2-1.主催プログラム実施件数

中期目標: 1,550 件/年
平成 28 年度: 1,331 件(86%)



2-2.主催プログラム参加者数

中期目標: 50,000 人/年
平成 28 年度: 53,976 人(108%)



平成 28 年度の達成状況と自己評価

総ビジター数は、760 千人、前年度比 90.3%で、81 千人の減少になりました。このうち本館入館者は、143 千人、前年度比 101.6%、2.3 千人の増加になりました。一方、館外活動参加者が、617 千人、前年度比 88.1%、84 千人の減少となりました。キャラバン・主催アウトリーチ事業において、単に展示を見ていただくだけでなく、自然や環境に対する興味・関心を高めてもらうことを重視した内容に変更したことによるところが大きいと思われます。(量から質への転換)

平成 29 年度の取組に向けて

開館25周年を記念して一般の方々に興味・関心を持っていただきやすい内容のセミナー、企画展を重点的に開催します。また、キャラバン・主催アウトリーチ事業については、参加者に対して探求するおもしろさを伝えることができる内容や手法を工夫し、質的充実を図っていきます。

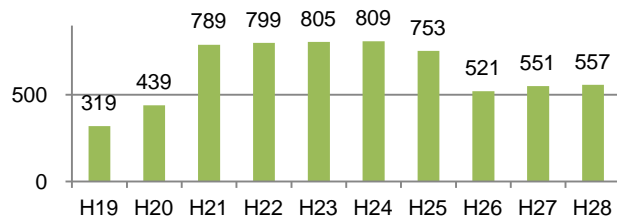
3 人材育成と活躍の場の整備

生涯学習
推進室

地域研究員・連携活動グループ等の担い手の成長を支援し、活躍の場をつくります。

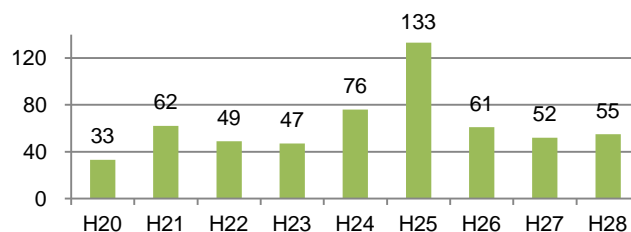
1 地域研究員・連携活動グループ登録者数

中期目標：500人(H29時点)
平成28年度：557人(111%)



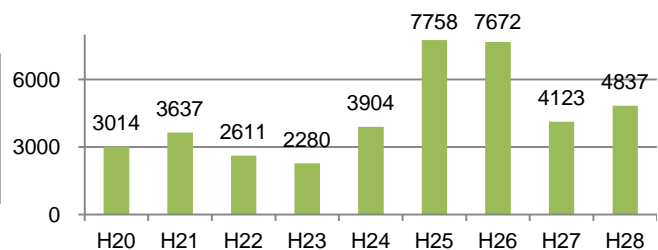
2 地域研究員・連携活動グループ主催事業実施件数

中期目標：40件/年
平成28年度：55件(137%)



3 地域研究員・連携活動グループ主催事業参加者数

中期目標：3,000人/年
平成28年度：4,837人(161%)



平成28年度の達成状況と自己評価

今年度は新たに6名の地域研究員の登録がありました。地域研究員・連携活動グループ主催事業については、実施件数・参加者数ともに中期目標値を大幅に上回り、活発な活動が行われています。第12回共生のひろばでは展示の部(2-4月)を廃止、発表の部として口頭発表とポスター・ブース展示(2/11)を実施し76件の発表がありました。それから、連携活動グループによるミニ企画展「淡路島の和泉層群産北阿万層の化石調査」が2/12-4/1に4階ひとくサロンで実施されました。

平成29年度への取組に向けて

これまで進めてきた取り組みを継続するとともに、今年度の新しい試みとして「ひょうご・ふるさとミュージアム」事業を通して新たな連携のかたちを模索し、仕組みづくりを行います。

4 連携・アウトリーチ活動

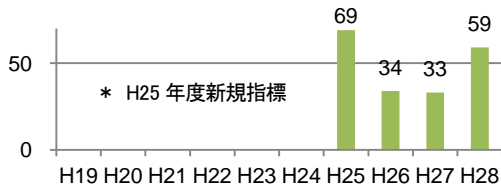


多様な主体と連携し、全県的に事業を展開します。

1 アウトリーチ事業

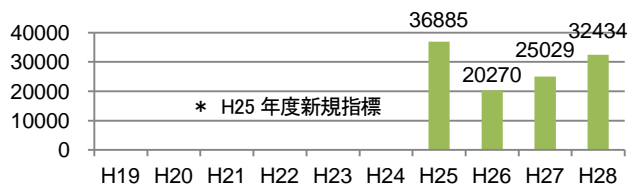
1-1. ゆめはく稼働日数

中期目標：50日/年
平成28年度：59日(118%)



1-2. ゆめはく参加者数

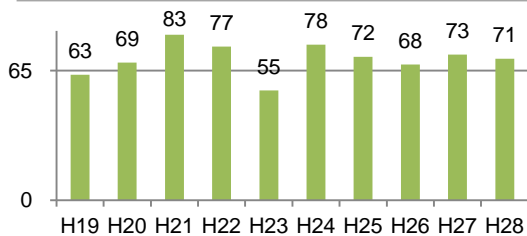
中期目標：10,000人/年
平成28年度：32,434人(324%)



2 連携(協力・共催)事業

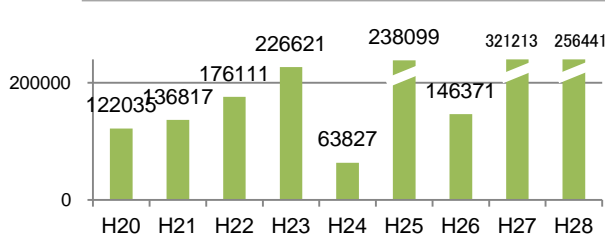
2-1. 連携事業件数

中期目標：65件/年
平成28年度：71件(109%)



2-2. 連携事業参加者数

中期目標：200千人/年
平成28年度：256千人(128%)



平成28年度の達成状況と自己評価

アウトリーチ事業・連携事業ともに中期目標を達成することができました。しかしながら関連指標のキャラバン・主催アウトリーチ参加者数は28万人(70%)から15万人(38%)に減少しました。これは道の駅等の移動展示型キャラバンが減少し、学校キャラバンに重点をシフトしたためと考えられます。

平成29年度の取組に向けて

開館25周年事業の一環として、Kidsキャラバン・Schoolキャラバンを各25カ所、合計50カ所を目標に実施します。これまでより大幅に件数を増やすことで、ニーズを把握し、次年度以降の事業展開を検討します。プログラムの調整によって効果的に実施する仕組みづくりや、スタッフ養成が課題となります。

5 マーケティング・マネジメント

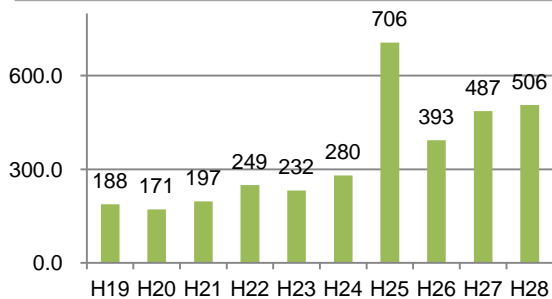
企画調整室

変化する社会に対応した効率的で健全な運営を行い、すべての県民に認知・利用される博物館をめざします。

1 情報発信

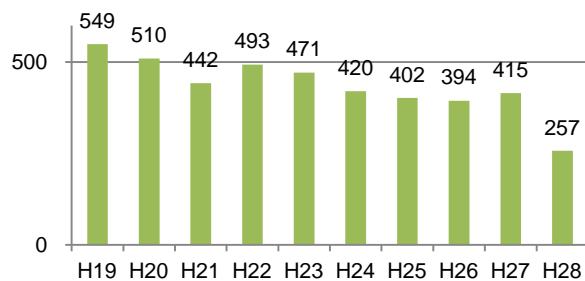
1-1. HP アクセス件数

中期目標：300千件/年
平成28年度：506千件(168%)



1-2. メディア等出演・掲載回数

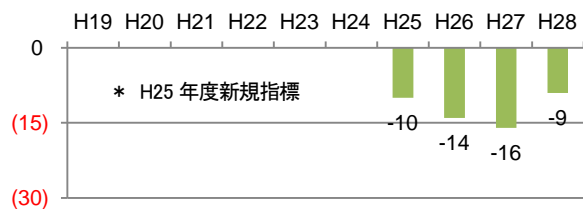
中期目標：500回/年
平成28年度：257人(51%)



2 エネルギー使用量

電気・ガス・水道使用料の削減率

中期目標：-15%(H24年度比)
平成28年度：-9%(60%)

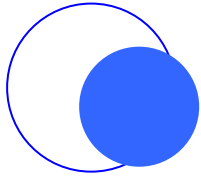


平成28年度の達成状況と自己評価

ホームページのアクセス件数は、前年度に引き続き高い水準を保っています。検索でヒットしやすい環境が定着していること、親しみやすいブログ記事を頻繁に更新するなどの努力の反映と考えています。メディア等への露出件数は、昨年度より減少し、目標値には届きませんでした。研究員の転退職が響いていると思われます。エネルギー使用量は、目標値を達成することができました。

平成29年度の取組に向けて

ホームページのアクセスやメディア露出については、新たに着任した研究員のパフォーマンスが、少しずつ現れてくると考えられます。さらに、研究員が内外で関わっている多くのプロジェクトを積極的に紹介、博物館活動のいっそうの可視化につとめます。エネルギー使用量については、来館者が快適に観覧いただけるよう配慮しながら、引き続き適正化を図ります。



タスクフォース事業

タスクフォース(組織群)について

従来の組織群とは別に、短期の課題を達成するために平成20年度からタスクフォース制度を導入しました。各タスクフォースはリーダー・マネージャー・メンバーで構成し、課題の達成状況に応じて年度途中でも人員は変更可能です。また新たなタスクフォースを発足できるようにしています。

■ビジョン実現タスクフォース

(1) ひとはくの研究と生涯学習機能強化・イノベーションに向けた将来ビジョンの検討

これまでの検討事項や課題、アクション・プランや現状の展示、プロジェクト群の整理を行い、新たな将来ビジョン構築に向けたファースト・ステップとして、以下のような内容を検討した。

1-1. 課題と必要性

・自然や生物多様性への市民の理解を深めることは、科学だけでなく、地域活性化や経済活動、文化活動にまで及ぶ現在の緊急の課題となっている。博物館の研究と生涯学習機能は、まさにこの課題解決の中心的な役割を果たすべきものであり、それらの機能をどのように強化していくのかは、人と自然の共生を博物館のミッションとしている「ひとはく」にとって最も重要な使命である。

・この数十年の科学・技術の革新には目覚ましいものであり、20年以上前から更新されていない展示情報や研究設備では、博物館の重要ミッションである研究と生涯学習を果たせない部分が多くなっている。

・社会情勢も、この数十年で大きく変革し、単に展示からの発信を受けるだけでなく、能動的に博物館に収蔵された資料や情報を活用した学びや、より本格的な研究活動に取り組みたい市民が増えている。これらの生涯学習に対する多様なニーズに答えて行くためには、ひとはくの研究と生涯学習機能を強化する必要がある。

1-2. 研究と生涯学習機能強化へに向けた方針の提案

・これまでにひとはくに蓄積されたコレクションを、県民へのアクセスビリティが高い形式で収蔵する「魅せる収蔵庫」や、来館者が最新研究機器を活用して能動的に学ぶことができるオープン・ラボや実習室などの新たな施設増築の実現を目指す。

・展示情報の更新が容易で、演示機能を強化できるようなギャラリー形式に、本館展示室などの改修を進めて行く。また、大学院教育などのより高度な学習から幼児、熟年層まで、あらゆる世代、あらゆる教育レベルに対応できるように、展示施設だけでなく、新たなセミナー室やワーキング作業スペースの増築改修の実現を目指す。

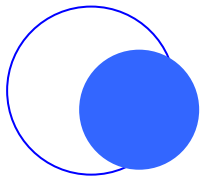
(2) 海外博物館先進事例の調査

ひとはくの研究と生涯学習機能強化・イノベーションに向けた検討の資料になる海外の自然史博物館(シンガポールの自然史博物館、オランダのナチュラリス生物多様性センター等)の事例を先行的に取りまとめた。

(3) 勉強会の開催

ひとはくの研究と生涯学習機能強化・イノベーションに向けた検討を進める知見の収集と意見交換の場として、県幹部や民間企業等の外部講師を招いた勉強会を開催した。

(ビジョン実現タスクフォース 田原直樹・橋本佳明・山内健生・大平和弘)



プロジェクト

ひとはくでは、2002年度の「新展開」以後、館長辞令による館独自の職制を導入し、研究員が事業部やタスクフォースを兼務する体制で事業を推進してきました。さらに2012年度に「ひとはく将来ビジョン」をとりまとめ、組織体制・マネジメントのあり方の一つとして、「適時チームビルディングを行う柔軟な組織体制」を掲げました。変化の激しい社会情勢に柔軟に対応するため、課題やミッションに合わせ、チームづくりや事業等のリストラチャリングをフレキシブルに行うことができるしくみが必要であり、2014年度より、「プロジェクト制」の導入を開始しました。これは、研究員になじみのある研究プロジェクトの方法を、事業等にも適用したもので、各研究員が自由に新規に立ち上げることができます。構成員は代表者、分担者、協力者で、ひとはくの職員に限らず、外部と協力して行うことができます。また外部資金の導入も積極的に進めています。ひとはくの活動を網羅する内容になっており、国際交流事業やシンクタンク、生涯学習プログラム、収蔵資料、学術研究など多岐にわたっています。ひとはくでは独自に中期目標を設定し定量的な指標を用いて評価を行っていますが、プロジェクトでは、定量的に把握できない質的なパフォーマンスを表しています。2016年度は、下記79件のプロジェクトを展開しています。

■2016年度のプロジェクト

- ・文科省博物館ネットワークにおけるレガシー事業
- ・頌栄短期大学標本の登録・整理
- ・恐竜特色化推進プロジェクト
- ・博物館国際交流事業の推進
- ・国際交流事業 高校生のための生き物体験ツアー in 台湾
- ・鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた検討支援
- ・うずしお科学館改修支援
- ・キッピー山プロジェクト
- ・加東市との連携と環境学習事業への支援
- ・2017年～2019年までの展示計画2 コレクション（収蔵）展示
- ・2017年～2019年までの展示計画1 トピックス展示
- ・古写真の活用プログラム開発（含古写真展の開催）
- ・ミュージアムボックスおよび4Fひとはくサロンの整備
- ・館内の壊れた箇所をチマチマ修理するプロジェクト
- ・ひとはくのハチ類コレクション整備推進プロジェクト
- ・Kids サンデープロジェクト
- ・ミュージアムキッズ！プロジェクト
- ・ゆめはくプロジェクト
- ・ひょうご・ふるさとミュージアムプロジェクト
- ・共生のひろば
- ・相生キャラバン
- ・中山間地域の学校における地域資源開発・人材育成型の学習教育プログラムづくり
- ・博物館研究紀要「人と自然 Humans and Nature」の編集・発行
- ・兵庫県下市町の生物多様性地域戦略の策定・推進を目的とした行政支援
- ・佐用町での薬草による地域づくりの支援
- ・地域資源を活かした「明延」のまちづくり支援

- ・博物館情報システムの開発とシステム整備
- ・地学系収蔵庫の資料整理の推進
- ・琉球列島を中心とした熱帯～温帯アジアの爬虫・両生類相の多様性と自然史に関する研究
- ・ブータンの爬虫・両生類の多様性に関する調査研究
- ・生物多様性創出機構の解明
- ・管住生ハチ類を指標とする里山環境の保全研究
- ・昆虫標本の展示手法の研究
- ・シソ科アキギリ属の送粉者調査と繁殖干渉
- ・兵庫県産植物を中心とした植物分類学的研究
- ・神鍋高原の植物写真本出版準備
- ・ネパール植物誌への貢献
- ・生物系標本庫（昆虫）の資料整理とデータの公開
- ・東南アジアにおける吸血節足動物媒介性ウイルスの網羅的探索とリスクマップ作製
- ・豊岡市におけるマダニ調査
- ・岡山市における蚊類調査
- ・愛媛県中～南部におけるマダニ調査
- ・日本産ウオノエ科甲殻類の分類学的研究
- ・シクリッドにおけるオス集団内色彩二型の進化に関する研究
- ・博物館ネットワークを通じた生物多様性情報の活用と標本整備
- ・神戸市排水処理施設浸出水における自然浄化システムの構築
- ・御影高校における博物館活用型の学習プログラム構築
- ・芦屋市打出浜小学校における干潟を活用した学習プログラムの開発
- ・「ドリームスタジオ・フェスタ」プロジェクト
- ・有馬富士公園 人材育成
- ・ミツカンよかわビオトープ倶楽部支援
- ・三田市景観計画策定支援
- ・近畿・中国・四国のランドスケープ遺産インベントリーの作成
- ・棚倉町里山再生・活用プロジェクト
- ・北摂里山博物館構想の支援
- ・三田市皿池湿原の保全
- ・たつの市鶏籠山の照葉樹林の保全
- ・兵庫県における未確認植物群落の実態把握
- ・都市公園と里山林の植物相の保全と活用
- ・丹波地域の貴重植物の探索と保全活動
- ・乾燥種子標本の収集・活用
- ・生物多様性保全に資するジーンバンク事業の展開
- ・植生資料データベースの構築・公開
- ・植物・植生映像資料データベースの充実化と有効活用
- ・ひとはく生物多様性の森を活用した市民活動・環境学習支援
- ・三田市南公園 まちなかり山保全プロジェクトの支援
- ・東お多福山草原保全・再生プロジェクトの推進
- ・生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用した生物多様性の普及・啓発、研究開発
- ・山陰海岸における海浜植物・海浜植生の保全推進
- ・名勝慶野松原の保全・再生
- ・ひょうご植生ガイドの作成
- ・生物系標本庫（植物）の資料整理とデータの公開
- ・高次脳機能障がい者にもわかりやすい放送音声の視聴実験
- ・アフリカ中央部（カメルーン、コンゴ共和国など）の既存収集品の整理
- ・インドネシア・パンガンダラン自然保護区のシルバールトン長期データの解析
- ・言語音がわかりにくい高次脳機能障がい者とともに作る生涯学習施設の放送音声
- ・「深田公園植物情報」展示等による演示プログラムの試行
- ・年配者と地域の子どもをつなぐプロジェクト
- ・昆虫を介したコミュニケーションの創出